

『みんなの図書館』2015年3月号（図書館問題研究会2015年2月10日発行）

図書館友の会山口県連絡会の周南市新駅ビル図書館に対する要請活動—その後—

図書館友の会山口県連絡会事務局 藤村 聡

周南市は中心市街地の活性化を図るために徳山駅ビルにかつての賑わいを取り戻そうと、2018年開館予定の新駅ビル事業の計画を、カルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）と連携して進めている。図書館友の会山口県連絡会（以下、当会）は、基本構想の見直しを含め慎重な対応を求める要請活動をしてきたが、『みんなの図書館』（2014年2月号）に掲載した経緯以降の、周南市と市議会の主な動き及び当会の活動と今後の取組を簡略に報告する。

1 周南市の動き

（1）新駅ビルのイメージ図発表

2014年1月24日、木村市長・内藤建築設計事務所代表・高橋 CCC 執行役員3者の共同記者会見で、新駅ビルの外観や図書館の内観のイメージ図が公表された。周南市 HP には「(仮称)新徳山駅ビルの整備イメージについて」がアップされて、外観イメージ・民間活力導入図書館イメージ・記者発表の様子が各3枚の図と写真で掲載されている。

翌25日の『中国新聞』には「ガラス張り 解放的空間 新徳山駅ビル イメージ公表」の見出しで、白黒のイメージ図を掲載。鉄骨3階建て延べ約4500㎡、2・3階の広いテラスはイベントに用いる、1階はカフェや書店、2階・3階は図書館を中心に配置、旅行や料理などの図書と地元産品を配列し、特産品を紹介する案を示したとの記事。『山口新聞』には3者の握手写真と新駅ビルの外観・内観イメージ図がカラーで掲載され、「2・3階にテラス 新徳山駅ビル・イメージ図」「自由な公共空間提案 民間図書館内観も発表」というタイトル。今後、市・CCC・内藤事務所が連携して基本設計・実施設計を進め、14年度中に設計を終え、15年度から解体、建設工事、18年度の開館を目指す。整備費は25億円と報じた。

（2）「徳山駅周辺まちづくりシンポジウム」

2014年8月29日周南市保健センターで「徳山駅周辺まちづくりシンポジウム」が開催された（約250人の参加者）。篠原東大名誉教授（徳山駅周辺デザイン会議会長）の基調講演「駅とまち—その歴史とこれから」の後、中心市街地整備課長と内藤建築設計事務所代表（東大名誉教授）による、基本構想と基本設計の簡単な説明。しかし会場で基本設計の概略図等の配布は無く、会場入口に模型の展示があったのみで、参加者は大体をイメージできただけだろう。

シンポジウムは、篠原会長がコーディネーターで、木村市長、内藤代表、高橋役員らパネリスト7人と登壇者が多く、各自の立場からの新駅ビルへの思いや、まちづくりの考え方を述べることで時間一杯になり、新図書館に関する具体的なことは分からないままで、休憩時間に集めた多数の質問用紙も4人に限られた。ただ、樋渡啓祐著『沸騰！図書館』中の、高橋役員の記者会見での発言「特に上半期については図書館運営のノウハウがなく」(P216)を引いた、批判的な質問も幸い取り上げられた。

内藤代表は、1階を店舗、2・3階は図書館にする、駅ビル内の活動が街から見えるように造り、2階には幅6m・長さ120mのオープンデッキを設けて街を見渡せ、庇の下でのイベントもでき、街のプラットフォームとして人々がつどい物語が生まれる駅にしたい。

高橋役員は、全国で5図書館に関わっているが、図書館は賑わい・コミュニティ・学びの空間として、市民が家同様に利用し、オープンなスペースで本と融合したイベント風景もつくりたい。中国地区最大のブック&カフェを目指し、図書館・駅・街のイノベーションを図りたい。

木村市長は、新駅ビルでまちが変わる。まちの変化の発信場所としてまちの歴史・文化・伝統を踏まえた魅力的な駅にしたい。核施設となる図書館はコーヒーを飲みおしゃべりもできるカジュアルな図書館とし、既存の5図書館(中央・新南陽・福川・熊毛・鹿野)は従来どおりの運営を維持する。

その他、人口減少時代(周南市も2040年に2割減)の中での、駅を拠点としたコンパクト・シティと公共交通、女性の視点からの駅やまちづくり、中心市街地活性化のためには商店経営者の意欲も必要などの意見が交わされた。

翌日には、地元山口、中国新聞、全国3紙山口東部版が一部カラー写真入りで報道。また『日刊新周南』には9月1日に掲載された。

シンポジウムに先立ち8月20日の市議会徳山駅周辺整備対策特別委員会で配布された、基本設計図検討案(レイアウト等は未記入)を入手していたが、1階の書店&カフェが予定されているスペースも「民間活力導入図書館」と、2・3階の図書館部分と同名の記載で、最初から一体的運営を想定、2階と3階の図書館の機能分担も未記入。また、やはり書庫は無く保存機能は予定してないなど問題が多い。内藤代表もソフトはこれからと言われていたが、まだ不確定要素が多いようであった。シンポジウムでの参加者アンケート結果は市HPに公表されている。

2 市議会の動き

市議会での執行部答弁は「まだ具体的に決まっていない、検討中である」など、型どおりの不透明なものも多いが、質問・答弁を通して議員と行政の考え方が見えてくる。次の報告は、本会議を傍聴したり、インターネット中継や録画を視聴してまとめた、新駅ビル

図書館関係の一般質問・答弁のごく一部である。

(1) 2013年12月議会一般質問

12月議会(12/3～20)では中村富美子、長嶺敏昭、古谷幸男3議員が、各1時間新駅ビル関連の一般質問。著しく老朽化した周南市役所に行き傍聴した。

①中村富美子議員への執行部答弁

11月18日の共同声明は民間活力導入図書館を核とした複合施設の整備構想実現に向けて、武雄市図書館で実績をあげているCCCとの連携について発表したものであり、現時点でCCCを指定管理者として決めていないが、有力な選択肢の一つと考えている。民間のノウハウを活用して従来の図書館サービスに加え、賑わいと交流の拠点にしたい。

○中村議員の発言 武雄市・伊万里市・小郡市の各図書館を視察した。武雄市図書館は書店であり図書館ではない。新駅ビル図書館も直営にして指定管理が既存5館に波及しないよう、ツタヤとスタバは来ても結構だが、図書館の運営は考え方を改めないか。図書館とは何かを考えて欲しい。

②長嶺敏昭議員への執行部答弁

共同声明はCCCの企画力を活かして市場調査等を行うため、現時点でツタヤとスターバックスとがテナントとして決定した訳ではない。

③古谷幸男議員への執行部答弁

CCCに業務委託して市場調査に基づき新駅ビルに関する空間コンセプトの企画立案をし、設計業者への助言等に活用したい。CCCは企画会社で商業施設と合わせた図書館空間の専門知識・技術を持ち、市場調査等の企画調査業務委託料は210万円。

建設費は新駅ビルが25億円、立体駐車場(100台規模)は約4億円で、駐車料金は一定時間無料。

(2) 2014年6月議会一般質問

6月議会(6/5～24)では、中村富美子議員の関連の一般質問を傍聴した。

市民アンケートの新駅ビルに欲しい施設の結果についての質問に対し、市長は、新徳山駅ビルは市の整備する公共施設であり、デパートや映画館等の商業施設を主体にはできない。市民アンケートではカフェと書店が1、2位で、公共施設の中では図書館が最上位で、ブック&カフェと一体的に運営する民間活力導入図書館は望まれる施設と確信する。

指定管理者制度は元文科大臣や総務大臣も「図書館になじまない」と言われたように絶対いけないと思う。図書館の開館時間延長や開館日増加は人を配置すれば直営でもできるのではないかの再質問に、副市長は、新図書館は民間活力導入図書館としてカフェと書店と図書館を有機的に運営し、利便性の向上や交流の場の創出につなげたいが、今の直営では達成できない。

(3) 2014年9月議会一般質問

9月議会(9/2～19)では岩田淳司、金子優子、中村富美子、古谷幸男4議員から新駅ビル関連の一般質問と、それに対する執行部答弁。

①**岩田淳司議員** 指定管理は全フロアを一括か、目的別か?また、何時からになるのか?に対して、執行部答弁は、駅全体として最善の管理運営方法について指定管理も含めて検討している。時期は、中心市街地商店街との連携を円滑に進めるために、民間活力導入図書館の指定管理者は、今年度末から来年度の出来るだけ早期に選定、説明責任を果たしながら議会の議決により指定する。新駅ビルの実施設計が進み規模・面積が決まって新駅ビル設置条例を制定し、指定管理者の選定を進める。

②**金子優子議員** 民間活力導入図書館の特色と既存5図書館との連携は?に対する執行部答弁は、新駅ビル図書館は賑わいと交流の場を目的に、既存館と異なる目的を効果的に達成するため民間活力導入図書館となる。近い場所の中央図書館とは機能・役割を明確にして、特徴を区別するよう取り組む。既存館との連携は実施設計が進んでいく中で議論を深める。

③**中村富美子議員** 新駅ビル基本設計案についての質問に対し、執行部答弁は、2、3階の図書館蔵書数や人員配置は、実施設計を進め運営を検討する中で提示する。1～3階を民間活力導入図書館と表示しているのは、全体を一体的に運営してもらうため。

図書館面積の積算根拠は?に対し、複合施設の中その他施設との関係からで、基本設計の途中であり今後実施設計を行う中で検討し説明する。図書館を造るのにデザイン会議やシンポジウムに図書館関係者がいないのはなぜか?に対し、民間活力導入図書館のコンセプトは賑わいと交流の場の実現であり、図書館関係者の意見は聴いているがデザイン会議等には入っていない。

④**古谷幸男議員** 徳山駅周辺整備全体の総事業費は?新駅ビル図書館はCCCが企画立案し運営も展開するとの理解でよいか?に対し、市長は想定120～130億円の範囲内に収まるよう努める(駅ビルは25億円)。新駅ビルの成否を左右する管理運営者の決定には議会の理解と協力が不可欠と答弁。

(4) 2014年12月議会一般質問

12月議会(12/2～18)では、新駅ビル図書館の関連質問は長嶺敏昭、中村富美子、古谷幸男3議員。

①**長嶺敏昭議員** 巨額の公共投資に対して特定業者の利益だけではなく、初期投資や運営経費に見合う経済効果があるのか?税金投入への責任を明確にすべきだ。に対し執行部は、現在実施設計の段階で具体的な金額は困難だが、核となる民間活力導入図書館と知名度と集客力のあるテナントが入り、市内だけでなく市外・県外からも多くの集客があり、十分な経済効果が見込め中心市街地活性化の強力なエンジンとなる。

維持管理費・指定管理料は市民が正常と思える金額になるのか？に対し、新駅ビルのハード、ソフトの詳細内容が定まって算定されるので、現時点では公表の段階でない。テナント料については、ブック&カフェや商業サービス施設を整備するので、公の施設として民間使用部分は使用料を徴収するが、条例や中心市街地の賃貸料を総合的に勘案して適正な金額を定める。

②中村富美子議員 8月29日開催のシンポジウムでのアンケート自由記入欄の意見をどう受け止めているか？ CCCは都合のよい数字をあげているが、専門家を交えた分析をすべきだ。既に賑わいもそれ程でなくなったようだが、新徳山駅ビルの人の流れが1.2年で止まらないよう、カジュアルな図書館でも直営で機能できるようにすべきだ。に対して執行部は、シンポジウムの来場者約250人のうち90%は理解が深まったとの回答で広く周知いただけた。例示された意見は図書館に対する期待や関心の高さの現れであり、事業の検討を進めるうえで参考になる。また、民間活力導入図書館は知名度と集客力のあるテナントが入り、図書館とブック&カフェが一体となった今迄にない図書館で公ではできない。専門的分析は図書館職員と意見交換をしており反映した図書館にしたい。

周南市の玄関であり顔である新駅ビル図書館をCCCに全て丸投げするのは非常に危機感を覚える。新駅ビルの開館は武雄市の指定管理が終わる頃になるが、踏み止まって今武雄市がどういう状況かよく見て進めるべきだ。に対しては、図書館職員、中心市街地活性化協議会等とも協議しており、丸投げの心算は全くない。武雄市についても随時情報を取りながら進めている。

③古谷幸男議員 現徳山駅ビル解体費は？来年度解体の予定、JR等関係機関と工法や手順を協議中で新年度予算で費用を説明する。底地の買収費、各事業費は？建設用地約6,000㎡をJRより718百万円で購入、駅ビル25億円、駐車場4億円で駅ビル関係は約36億円で解体費が加わることになる。指定管理者は公募するのか？公募するかどうかは決めていない。予定はCCCになるという理解でよいのか？新駅ビルの設置条例を制定し、指定管理者は手続きを踏んで決めていく。

新駅ビル図書館の来館者目標値は？武雄市図書館を参考に年間100万人を目標とした。中央図書館と新南陽図書館の来館者数は？H24年度35万人と13万人で計48万人。中央図書館と新南陽図書館の運営費は？H25年度138百万円と48百万円、合計186百万円。新駅ビル図書館と中央図書館の距離は約700m、新南陽図書館の入る「学び・交流プラザ」（来春竣工）は5.5km、公共施設再配置に矛盾するのではないか？ニーズの高い新たな機能を持つ民間活力導入図書館として、公共交通の結節点に整備し市民サービスの拡充に貢献して賑いの創出や回遊性の向上を図るなど、再配置計画に矛盾するとは考えていない。

新駅ビルの位置づけをどう考えるのか？中央図書館や新しい新南陽図書館にないものを入れるのか？中心市街地活性化が大前提で、民間活力導入図書館も議会との協議で出てきた。他にない機能を持ち商店街と連携した、名前は図書館だが全く新しい施設ができる。

機能が違う集客力が高いというが、多額の税金が使われる新駅ビルに、指定管理料を払い上乗せして図書館を入れるのは理解できない。指定管理料が2億なら5年で10億円、中央図書館や新南陽図書館の運営維持費もかかる。中心市街地活性化、駅周辺の賑い創出という言葉で片付けられない問題がある。まちづくりは限られた予算の中でそのまち独自のものを必死で考え、効率的に予算を使って取り組むものだ。新駅ビルの違った活用方法で、他の施設の利用方法も全て変わってくる。今のままでは民間活力の図書館導入は承諾できない。

3 当会の活動と今後の取組

(1) 5月22日の要請活動

2014年5月22日午前11時から1時間、周南市立中央図書館において、直接担当の中心市街地整備部長と教育委員会の教育部次長、中央図書館長と面談して、2013年10月28日・11月18日に続く再度の要請活動をした。当会は代表・河井（立教大学名誉教授・図書館学）をはじめ4人の参加。

当会としての提言や対案を基にした要望書を、若干の説明を加えながら読み上げ、付随する資料についてもごく簡単に説明して後に、12時まで意見交換した。

○市側からの回答・意見の要旨 現在の進捗状況について、基本設計はゾーニングの段階で、夏頃には出来るだろう。その後にシンポジウムの開催を予定している。「徳山駅周辺デザイン会議」に図書館関係者が入っていないが、整備部長と中央図書館長で連絡し合い情報共有はしている。

指定管理については、「民間活力導入図書館」として図書館の直営は考えていない。新駅ビル全体の指定管理者としては2社も検討している。CCCとは調査・企画について連携しているのであって、指定管理者に確定している訳ではなく、ツタヤとTカードについても未定である。また、Tカードを利用するかしないかは個人の選択なのではないか。

新駅ビル図書館は図書館法による公立図書館であり、中央図書館はじめ既存5館との役割分担や連携についての協議は、これから基本設計が進んでからになるだろう。新駅ビル図書館が優先され既存5館が後回しになるのではとの危惧については、既存5館の管理運営は従来どおりに堅持する。

徳山駅ビルの活性化については長年の懸案でもあり、様々な意見が市民からも出てきた経緯があって、最終的に現在の構想で進めることに決まったのは理解してもらいたい。

「民間活力導入図書館」を核として、公共スペースには「新たな徳山駅ビル整備基本構想」（2013年11月）に掲載されている色々なコーナーが入る予定である。

2度目の要請活動は当会としての提言と対案を示し、現行の構想、特に、武雄モデル踏襲の見直しを含めて慎重な対応を求めたのだが、市側も参考になった様子ではあり一定の

効果はあったものの、残念ながら予想どおり路線変更は難しいのが実状である。ただ、今後とも当会と市側との意見交換は継続していくことで合意した。

(2) 7月28日の学習会

嶋田 学氏(瀬戸内市新図書館開設準備室長)を講師に招いた「図書館を学ぶ会」(演題:「市民とともにつくる図書館～まちづくりに活かすために～」、会場:周南市保健センター)は、猛暑で参加者がどうなるかと心配されたが、目標としていた50人に達し満室の盛会となった。「持ち寄り・見つけ・分け合う広場」をコンセプトに、瀬戸内市での市民と協力しながら進めている図書館づくりを中心に話されたが、講師の長年の実践経験と研究活動に基づく、詳細なレジュメとパワーポイントを活用した分かり易く説得力のある講演で、市民からの質問も活発であった。

参加者は、図書館づくりは一時的な賑わいのための借物でなく、地域の事情に根ざし市民の意向に沿いながら市民とともに進める図書館づくりこそ、真に人づくりまちづくりに役立つ図書館につながることを理解されたのではないかと思う。図書館や友の会関係者以外の市民参加者の中には市教育部次長や市議員2人、周南選出の県議員1人も来聴し、新聞各社も来場した。できればもっと市民に参加してもらいたかったが、まちづくりの中での図書館の役割への認識を深め、新駅ビル図書館の問題に対して関心を広げる契機になったのは成果と言えよう。

翌日の『中国新聞』には「民営市立図書館課題は 徳山駅ビル核施設 市民が集い」と、やや気掛かりなタイトルながら講師のカラー写真入りで報道された。

(3) 今後の取組

新駅ビル図書館の武雄モデル踏襲は、図書館の深刻な商業化につながる一方、賑わいも一時的で市の持続的発展にはつながらないと予想される。新徳山駅は市の表玄関、しかも図書館がメインの市の顔づくりを、専門家ではない東京の企業CCCに企画から管理運営まで委ねるとは信じ難い思いである。

当会は5月の要請活動の際に、武雄モデルの新駅ビル図書館と近くの中央図書館の役割分担や連携は混乱が必至と予測されるため、機能を分離する提案(「視聴覚ライブラリー」「まど みちお記念こどもランド」など)をした。

また、指定手続条例はもとより議会状況から判断して、非公募による管理者指定は難しいだろうが、公募しても業務要求水準書の内容によりCCC以外に応募が無い場合や、他社が応募したとしても、指定管理候補者選定の段階でCCCが選ばれる可能性が高く、事実上の特例指定となることが危惧される。この指定管理者が形式的公募により事実上の特例指定になる疑問とともに、事業全体が多額の税金による特定企業への便宜供与の構図になる疑念も要望書に明記し指摘した。

周南市は基本構想どおり「民間活力導入図書館」を指定管理者 CCC で運営する既定路線を走っているが、新駅ビル図書館に関して、2014 年 12 月議会で共産党中村議員以外の会派古谷議員からも、異なる角度から明確に異議が出始めたのを当会は朗報と捉えている。一部の他会派議員も新駅ビル事業の進め方に疑問を持っているようで、今春の統一地方選挙の際の周南市長選挙（4 月 26 日）では、新市庁舎建設ほかの事業とともに争点になると予想される。

当会としては 3 度目の要請活動を、2013 年 10・11 月、2014 年 5 月に続けて、2015 年 2 月に実施する予定である。指定管理者制度導入にあたって、図書館条例改正が今年度末 3 月議会に提案される可能性があり、その前に要請活動をする。

今回は、新駅ビル図書館に危惧される問題に関し、望ましい図書館の在り方の観点から、中央図書館と機能を分離すべきだが、地域館にするのなら市の図書館組織網に位置付けた直営にすべきであり、特に CCC が指定管理者の場合の問題点（Tカードほか）や、事業全体に対する疑問点などを列挙した要望書をまとめて面談し、基本構想の見直しを含め慎重な対応を求めていく。

さらに、「図書館を学ぶ会」も 2013 年 11 月、2014 年 7 月に引き続き、2015 年も企画する予定で、市民の図書館問題への理解と認識を広げていきたい。

現時点で市の方針転換は至難であり、市民の組織化も困難であるが、2018 年の新駅ビル開館まで期間もある。下関市立中央図書館の指定管理から直営に戻った好例にも力を得て、地元関係者をはじめ「図書館友の会全国連絡会」などの関係団体・機関とも連携しながら、また、武雄市はもちろん、武雄モデルを踏襲する多賀城市等の推移も注視しながら、ねばり強く運動を続けていく心算でいる。

皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。